

氏名	山之内 智志
学位の種類	博士 (医学)
学位記番号	甲第480号
学位授与年月日	平成29年6月7日
審査委員	主査 教授 田島 義証
	副査 教授 仁科 雅良
	副査 臨床教授 駒澤 慶憲

### 論文審査の結果の要旨

虚血性大腸炎は血便を生じる疾病の中で最も頻度の高い消化器疾患である。腸管粘膜の局所循環障害が原因と考えられ、動脈硬化などを背景とする血管側因子と腸管運動異常や便秘などを背景とする腸管側因子が関与するといわれているが、不明な点も多い。一方、心筋梗塞や消化性潰瘍など様々な疾患が気温や気圧などの環境変化の影響を受け、季節性に発症することが知られている。しかし、虚血性大腸炎については明らかでない。そこで申請者は、虚血性大腸炎の季節性の有無に着目し、7年間、364例の虚血性大腸炎患者を対象に後方視的臨床研究を行い、患者背景や季節性の変化の特徴などから、発症機序について検討を行った。その結果、虚血性大腸炎では季節性は認められなかった（月別： $p=0.642$ 、四季別： $p=0.888$ ）ものの、各年代とも女性が男性よりも多く発症し、男性89例、女性275例と約3倍の男女差を示した。また、高齢者になるほど多く発症していたが、30代女性にも小さなピークを有し、50歳未満の若年女性にも比較的多く発症していることを示した。また、統計学的有意差はないものの、この群は冬から春にかけて発症が減るのに対して、他の群は増加するという異なる季節変化の傾向が見られた（ $p=0.225$ ）。さらにこの群は他の群と比較して動脈硬化などの血管側因子を持たない群（糖尿病： $p=0.037$ 、高血圧： $p<0.001$ 、脂質異常症： $p=0.005$ ）であり、腸管側因子が発症により重要であることを明らかにした。また、観察期間内に再発した18例（延べ29イベント）の半数が初回発症時と同じ季節に再発していることを示した。つまり、患者個々でみると、ある特定のリスク因子が同じ季節に影響することで、同じ季節に再発しやすいことが示唆された。

本研究結果は、虚血性大腸炎の発症機序を考えるうえで示唆に富むものであり、学位授与に値すると判断した。